



多摩都市構想研究会

榎原村訪問・見学報告

2023年11月

訪問日 2023年11月20日(月) 午前11時～午後4時半

(当会参加者)

櫻井巖会長、渋谷信和副会長、飯田哲郎副会長、平野正利監事、菊地輝雄事務局長、片桐章太会員、新井英明協同組合TDR理事

(榎原村)

吉本昂二 村長、久保嶋光浩 総務課長

(コーディネーター)

吉澤実 元東京都商工会連合会事務局長

(榎原村概要) 2023. 11.11日現在

面積 105.41km² 内森林が93%。村の中央を標高900mから1000mの尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れこの川沿いに集落が点在している。

人口は1996人、主要な産業は、観光、農業、林業である。

かつて林業の村として栄えた榎原村の人口は、昭和22(1947)年の6,642人をピークに減少の一途をたどり、現在2023年11月に1,996人になった。

森の街榎原村には、東京都で唯一の「日本の滝百選」の払沢の滝や観光名所「神戸岩」などのほか数十の滝があり、また眺望に勝れた山々がある。

そのほか「数馬の湯」や山岳公園の「檜原都民の森」などこの地ならではの施設がある。最近では、「檜原森のおもちゃ美術館」や軽食の取れる焼酎工場「ひのはらファクトリー」なども出来ている。

(今回の見学場所)

- (1) 檜原森のおもちゃ美術館
- (2) ひのはらファクトリー
- (3) 神戸(かのと)岩
- (4) 檜原村役場 懇談



(訪問・懇談の概要)

吉本村長のご挨拶

一言ご挨拶させていただきます。

先日は、立川中央病院でのセミナーに参加させていただきました。ありがとうございました。皆さん、多様な分野の方たちの集まりだなというのを実感させていただきました。

今日は、飯田社長様と檜原村に住んでいる吉澤さんに音頭を取っていただき予定を組ませていただきました。

最初に、神戸岩(かのといわ)という、昔から神が宿るといいうような形で、何でこんな大きな岩が中をくり貫いたのだろうというように浸食によって岩がすごい借景を見せております。縦横100Mぐらいの大きな岩盤がそこを切り抜いているという、檜原村でも一番の観光スポットとなっています。

次に、「ひのはらファクトリー」という焼酎工場、や「おもちゃ美術館」があります。その美術館は檜原村が音頭をとって、子どもさんが来て遊べるようなところを作っております。

檜原村は93%が林野でございます。その林野がうまく機能すれば、檜原村はすごく潤うのですけれども、一方、木の需要が本当に少なくなっています。それが利用されるまでは私の思いとしては、環境をいかにして保持して、檜原村が東京都でこの森林を残していけたらということで、

都知事にもいろんな形で支援していただきたいということでお願いをしています。問題はとにかく道路は幹線が一本しかありません。また、道路維持や一本の橋をかけるのも、もう本当にすごく長いスパンを要していますので、私どもが生きている間にその辺のことも解決するのかなというそんな気がしています。

かつて都知事が言っていたいて、じゃあやろうということで用地買収や橋をかけていくということでしたが、途中、財政がよくないということで中止になりそのままになっています。最近の状況だと財政状況もそれほど悪くないということなので、それを再開してもらいたいなと思っています。なんとか知事に、その辺もお伝えして実現に向けていきたいなと考えております。今日は本当に遠いところまで来ていただきましてありがとうございます。ゆつくり檜原を見ていただいてファンになっていただいて、これからいろんな形でおいでいただいたら助かりますので、よろしくお願いします。



(1) 檜原森のおもちゃ美術館(館長の説明)

森の豊かな恵みを生かした「体験型美術館」という位置づけで建設されました。年間24万人の観光人口のうち4万人が来ているという、観光の中心となる施設となっており、成功事例だという風に感じています。

ここで仕事されている方は、村の方が半分あとはパートさんとかで、隣のあきる野市からいらっしゃっている。まずは村内雇用ということも言われておりました。

また、ここにお客さんが来ることによって、地域の方たちも本当にこんなに来るのなんていう話だったので、周りでも多くの方が施設に来られるのをみて、少しずつ飲食店を始めたりと、地域にも貢献をしているのかなというふうに思っております。

街づくりをどうやって応援できるか、地域がさらに少しでもいい発展ができるように力を入れていければと思っておりますよろしくお願いします。



2 ひのはらファクトリー

ひのはらの焼酎工場。じゃがいも焼酎や世界初「木の酒」を製造、販売している。館内では、軽食も楽しめる。じゃがいも焼酎をベースに、世界初の木の酒を造っている。小物類も販売しており面白い。



(村役場での村長のご説明)

1 村の交通事情

村内唯一の交通がバスですが、通学とか通勤のタクシー、バス利用がほとんど減っている。昔は定期バスもあったがそれでやっていけないということでデマンドでやっています。昔は学校、高校に通うのに、みんなうちからバスでいっぱい運んでいたが、今武蔵五日市駅(あきる野市)に行ってもその時間帯でも全然乗っていません。

どうしてかというと各家庭の車で送って行って、送迎してもらっています。

2 人口と定住化対策について

檜原村は第2次人口ビジョン総合戦略では、20年後には人口が800人になるというそんな予想が出ています。檜原村では、年間で出生が10人以下という生まれてないんですね。それでお亡くなりになる人が年間50人いますので、その差の40人が黙っていれば減ってしまうというところで、私はすごい危機感を覚えています。これを何とか打開していくというのが私の課題だと思っています。

現在、57億円くらいの基金を積み増しています。それを利用して先行投資で土地を購入して何に使うかといったいろんなことで使えらると思います。まず住宅を作って子育ての優しい村にしようということで、そ

して企業誘致に使います。いろんなことで使えるので有効に基金を使わせてもらおうと考えています。

そして空き家になつている家が非常に多いのですが、相続がまだということとそれを今は貸してもらえません。来年からは相続は3年以内にやるというのがありますが、今現在相続ができていない2代3代前から相続が終わっていないという家が結構ありますので、その辺もできたらアドバイザリー事業ということで、相続をお手伝いするような形で、それではそういうことをしてできたら貸していただいて、移住者とかそういう人たちに貸して人口を増やす、そんな目論です。

人口の推移を見てみればわかるのですけれども、昭和22年は人口が6,642人ということでございます。今の3倍いました。それで今年11月1日現在は1,996人ということでございます。

自治会も限界集落を超えておりますので維持が大変です。とにかく、53.3%が高齢者比率(65歳以上)なので非常に危機感を覚えていますが、これも、これどう解決していったらいいかというのは非常に難しいので、先ほと言ったようなことを、一生懸命頑張つて自立しようとやっております。

3 森林と林業

檜原の面積のうち、93%の林野のうちの植林率が66%、針葉樹が

ほとんど植え付けられてしまつて、紅葉をしないような山になってしまつている。それが一番私はネックだと思つています。昔は経済林ということで植え付けているんですけど、今はもう環境林だと、環境を守るためにそんな形ででも植え付けた人たちにしてみれば、経済林なのに、環境林なんてどこがいいという人も中にはまだ結構います。昔は山仕事をしている人たちが1,000人くらいいたのですが、今は40人とかそのくらいですね。でも40人くらいから今現在山に携わる仕事をしている人が徐々に増えていきますね。昔、山は雨が降ると仕事はお休みだったので非常に収入が少なかったんですけども、今は雨が降ったら薪を作ろうとかいろんな形で雨の日の仕事だとか、キャンプ場を作ったり、そういうような形で年間の収入を安定させるような形の事業者が増えてきました。

4 予算と積立金の活用

一番の問題なのが予算関係です。

令和4年の一般会計は、予算総額で一般会計が約40億、支出は38億くらい。収入の内訳は地方税、村の税金は約2億円、全体の比率化すると合計1%に当たります。地方交付税は14億8千万円ほどで37%ほどで、都支出金は15億8千万円で39.5%、これについては都民の森の指定管理の管理費も含めての話ですが、大体、地方交付税と都等支出金で同じくらいの比率を占めています。あわせて76.5%と

いうことで、これがなかったら檜原は全然やっていけない状態で、その中で基金を積みましています。

令和5年度の基準財政需要額につきましては、既に確定しており15億1,800万円です。これは基準財政需要額プラス公債費プラス包括算定経費、そして臨時財政対策費を引いたものです。

基準財政収入額は2億6,000万円ということで、これは市町村税と固定資産税と15項目を足したものです。

標準財政規模については15億7900万円ということで村税等の収入割合になります。

財政力指数については0.164ということで、これについては村税等の収入の割合になります。実質収支比率については、令和4年度で、9.1ということです。そして、経常収支比率については73.2ということで、これは85を下回っていれば健全だということで檜原村が73.2ということで健全ということがわかります。

積立金は基金になりますけれども54億4,000万円ということで、これについては15基金になります。最初のうちは基金についてはどんな時代が来るかわからないので、東京都でも使うわけじゃないので、基金に回すことは特に問題ないでしょうということで、一応はいただいていたのですが、ここまで増えると普段の事業に使わないでただ基金に回しているのかということも言われています。それで、今後はこれを利用し使わないと

ちょっと問題があるかなということで。土地とかそういうふうなものを取得して活性化につなげるように考えています。

地方債の現在高については7億7800万円、地方債というのは借入です。そして地方交付税についてはもう決まっていますけれども、12億5,700万円ほどです。そしてそのうちの普通交付税が12億5,700万円でございます。ラスバイレス指数は99.9%でございます。

村ではいろんな形のことをやっておりますので、できたら皆さんにいろんな形で今後ともご尽力いただいて、檜原村が成り立つような形でご指導いただければなと思っております。私の方からの説明については以上です。

「自由発言」(参加者との懇談)

村長の御発言は ◎ で表記

1 道路の整備について

I 山は道路が狭くて車が行き来できませんよね。あれ、もうちょっと行き来できれば観光客が増えると思いますが如何ですか。

K 道路整備は難しく、このくらいのお金じゃとてもじゃないけどできないと思う。

◎ この幹線は都道、今日走ってきた集落に行く道は村道、途中から林道、林道は東京都の管轄するところもあります。

S 村道のところで今言ったようなことをやるっていうのがいいことだね。ただ単に通過するだけじゃ意味がない。そこに行つて楽しむとか何かするとか、そういうものを作る必要がある。

I 結構楽しいところがいっぱいありますよね。

2 定住化促進について

K 一番の課題がやはり人口減少についてどう打開するかが一番大きなテーマとおっしゃられたんで、展望をもう少し村長のお話をお願いします。

◎ 先ほどこちとお話したんですけど、とにかく人口減少が本当に20年後には800人になってしまうという。そういう統計もありますので、それを乗り越えていかなきゃいけないということで、土地をとにかく基金で購入して、それでその対策に住宅政策と

か、そういうふうなものに充てて、それから移住者についても空き家を利用して移住を増やし、新しく住宅を作ってそこに住むのだと、そういうふうな形のことを考えています。

檜原村の自然を生かした教育ということで、教育関係にも一応担っていたいて、こういう教育をしているぞ、ということでもPRをして人口を増やしたいなどそんな考えで進めていきたいなと思います。

また、保育園を新しく作っており、施設自体は公設民営で管理していただいています。村の中だけではなくて、他のところからも来ている人が何人かいますが、需要と供給のバランスは大丈夫です。

K 外から仕事、例えば木の美術館、そこも半分ぐらいはあきる野市などの隣の地域から来ている。そういう人が子供を連れてくる可能性もある。

◎ 檜原村で事業を始めるにあたって村が応援するから、必ず村内で雇用してもらう。しかし、募集してもなかなか檜原自体で人が集まらないのが現状です。

K 仕事があれば、そこに若者が来て住む家があつて、保育環境もあつて、教育環境もちゃんとしていれば移住してくれるのではないかっていうのはありますよね。

◎ それはあります。

3 企業誘致について

◎ 募集し村が結構お手伝いして、企業誘致の補助金とかいろんなことをやっているが、なかなか集まらない。やはり田舎などで人を集めるのが非常に難しい。村では企業誘致にも手厚い補助金とかをやるような形は考えています。

I 仕事と交通っていうのは非常に大きなネックっていうのを私も感じてるんですけど、結局通えない。

◎ 道路の整備をすれば、働く場所はあきる野とか八王子だとか、通う圏内にはいっぱい工場がありますから、逆にそういうところにみんな出ていつてしまった。雪が降ったら夜から除雪してますし、それで道が止まるような場合はほとんどありませんので、あとは台風だとか、大雨による降雨量が今140mmでストップしてしまいますけども、それにはもうちよつと250mmくらいでも耐えられるような道路の整備が進んでいます。

4 テレワークについて

I 檜原村では、例えば仕事はここになくとも都心にあつて、テレワークで仕事できるというような環境というのはどうでしょうか。

◎ サテライトオフィスという形でテレワークで仕事できるような施設を作つて運用しています。パソコンを使えるような結構広い場所がオ

ーンスペースであって、なおかつ10人ぐらいは泊まれるようなベッドを用意している。5Gは入っていませんが、ワイハイは使えるサテライトオフィスです。ここから車で数分のところですよ。



（写真…ホームページから）
東京唯一の山村「檜原村」に、テレワーク&ワーケーション可能な新たな関係人口拠点「Village Hinohara」が2022年1月にオープン

5 木材活用の拡大

H 林業がうまく産業として基軸になればいいかなと思いますし、流通の関係はだいぶ整備するところも必要ですが、これから木造関係の建物というのは建築基準法が変わって今までと違って、6階7階のビルでも木造でできるようになりますから、少し林業を稼げる柱にしてもいいのかなと思います。

K 木材需要はこれから出てきます。問題は今、外材と比較するとコ

ストが全然違うということです。大学や企業にも、木をどう切り出してどう安価に搬出できるかとか。この急峻な山の中でコストを抑えられる実用的な研究をしていただけないか。そうしないと、この東京の山は死んでしまうのではないかと思います。

◎ まさにその通りです。というのは、知事の話をする、要は多摩産材の利用ということですから、力を入れているんですけど、ある機械で4歩回って掴んでピツて切ってダツとやって排出できるんですけど、この辺だと、その後の排出がすごく大変です。檜原村でも、そのために林道を1メートル作るのに補助金を出していくということ、そういう形ではやってもこれだけの山を今まで全然切られていないので。

それから、木造で今もう20階以上できるんですね。燃えないような注油をして布で覆うような構造材もできますから、それで村でもそんな形で考えてるけど、ただコストがすごい高いんですね。1棟あたりこの辺では2000万円くらいでできるのが4倍で8000万円くらいなんです。それを積み上げていって4階建てやつても、まだまだ相当コストが高いからということだね。秋川流域でそういう話があつて某設計会社からの提案であきる野市の土地を借りたりして、そういうようなものを取り組んでみましょうということでは来てます。ただ人材を育成するのに一人前になる

まで村で面倒をみることはできない。

また、切りだしの機械を多摩の方に貸すということである会社が預かっている。しかし、切り出しの機械が山に入っていくのが大変。

K 毎年毎年花粉も出ていますしね。間伐もできない、下草刈りも枝打ちもできない悪循環が続いているわけです。それをどう断ち切るかというのは、檜原村だけのテーマじゃないわけです。森の改革はビジョンを持って長期的にやらなきゃダメです。技術開発も含めてね。まちづくりのコーディネーターも必要で、どうしたら本当にこの多摩の森を守って木を切り出す循環を作れるのかとか本気でやらないといけない。このままだとまさに先は真つ暗闇ですね。

道路も木も、ある循環を作れば、木が売り出せば道路も整備できる。そこに雇用もある。どこに目をつけるかというのはこれはそのマネージャーが必要です。みんなでアイデアを出す。

S 私どももまた、それを研究会として勉強しなくちゃいけない。

6 森林環境税

◎ 森林環境税の導入によって山を手入れをしましょうということで。そういうふうな形で都内でも区と市町村との連携で協定を結ん

で、

そのお金を有効に使いましょうという協定を結んであります。で、ただこの山、台帳上は1ヘクタールです。言っても、確定してないんです。それで1ヘクタールの山の価値って言ったら、昔は1000万くらいしてたんですけど、今は100万もしてないんです。それで、今売り買いがほしい、木が生えていて60万とか70万です。それを森林環境税で手入れをするんですけど、確定するのにその2倍くらいの200万くらいかかります。

村としても、その土地を確定して森林環境税を提供してもらおう。そんな形にはなるけどやらないよりもいい。ただその場合にも花粉対策ということで樹種の変更までいかない。

東京都では、杉を切ったら花粉の少ない木を植えてくれる。20年間管理をしてくれて元の人達に戻します。そういう事業を東京都は率先して、おそらく既に20年くらい経つてると思いますけども、それをやってくれているので他の県とは全然違うような形で進んでますね。

K 当研究会ができることはいろんなところに協力を求めることとか、連続してフォーラムをやるとか。自治体を越えて、または学者であるとか、そういう人の力を借りるとかですね。この急峻な森の中で科学力を駆使していろいろ考えられないか、みんなそれ分かって。分

かつてるけど、力がまだ結集されてないんです。それを支持して
るのは世論だと思いますよね。多摩の森を守ろうじゃないかっていう
気持ちになってくれればいい。今花粉だって当たり前になっちゃって、
毎年病院がこれでいんだみたいな気持ちになってますね。木材輸
入の自由化に始まり一挙に多摩の森は廃れてったわけですからそ
ういうところをしっかりとみんなが理解して、この木をいかに安く
搬出できるか、こんな近場にあるわけですから。

S
だから、そういうことも含めて具体的なプログラムをもうちょっと整
理しないと知恵を結集するみたいな感じで。

I
大事な視点が皆さんからあつたと思いますが人口が減つて
かつて6,000人の人口がこれから800人ぐらいになる。一方で
素晴らしい自然がある。木を生かしたいが仕事がない。そういった要
素を全部集めると、解決方法、知恵というのはいくつかあると思うの
ですよね。鉄道は五日市駅で止まっついてここまで来るのに車で20、
30分かかる。奥多摩町の方は奥多摩駅まである。都内とか立川
に通う通勤圏内だということであれば人口は減らないんですよね。
通勤圏内ではないから減つてるんじゃないかと思うんですね。林業も
1000人いたけども40人になっちゃった。

K
ここは交通の便が悪いから、逆に言う自然が保全されている。こ
れ10年後に逆転するのではないかなって思つて、ただ10年先を

までどういうプロセスでいくのかっていうと、10年後をどう描くのかっ
ていうのは非常に重要じゃないかって思います。交通手段つてのはも
うこれからどんどん変わってくる。自動運転の時代。奥多摩町でも
郵政のプロジェクト始まってるとか。だから、もうすぐそこまで逆転
の時代が近いという気がするんですよ。

◎
そこまで来てますね。ただ村で今何ができるのかって言ったら、やは
り奥多摩町さんがやつてるような荷物運搬。物流ですね。

7 在来工法の見直し

◎
あとは一つ材料を使うにしても都内なんか行くと、家がみんな合
板で張り付けてあつて、もう20年30年で朽ち果てる。屋根なん
かもコロニーでそんな長持ちしない。在来工法の住宅なんかは檜原の
売りだつてことやってたらどうかって思っています。

京都の神社仏閣が1000年以上もつているということで、普通の家
でも在来工法でやれば必ず100年持つ。それはやっぱり同じくら
いに作った家を見ると全然違いますね。きちつとしてる。在来工法じ
やない今風の家っていうのは、もう壁は塗らなきゃいけない。

H
ドイツとかイタリアなんかみんな200年300年くらいの家ばっか
りですよ。それがいいとは言わないけど。

◎
やはりそういう形のものも検討の価値がある。

A 数年後には、高性能の機密断熱の住宅や、太陽光とか、そういう住宅が義務化になっちゃう。そうすると助成金も出るとかね。

K そろそろあと10分程度ですから提案させていただきたい。

いろんな意見や村長さんからもいろいろお話があつて、いい施設を見させていただきました。希望もあるし、そこで僕らができることはやっていきたい。檜原の問題は東京の問題であり、日本の世界の問題です。

当研究会としては継続的に一緒にお話をさせていただくと、何かデイスカッションをするような、来年一つの具体的なイベントを企画したい。その時には、村長さんにもぜひぜひお力添えをいただいて、スピーカーになつていただくとかですね。雇用の問題とか産業の問題とかいろいろと含めてちょっといろいろ研究していきたいなと思っておりますのでどうぞよろしく願います。本日は長時間ありがとうございました。